大正八年九月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百四十九號

婦人衛生雜誌

第三百四十九號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

雜報

會報

謹告

來十月十三日（第二月曜日）午後一時半より本郷區湯島（お茶の水）高等女學校附屬作樂館に於て本會例會を開き衛生講話有之筈につき御知友御誘引の上會員諸姉の御出席あらんことを

大正八年九月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや知識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんことを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら努むべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を措かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ每月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話をなし互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治三十一年十一月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を增進する方法を講究し衛生上の知識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の紹介を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す、入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金貳拾五圓以上、特別會員は一ヶ月金貳拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て發行する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は遺族知友より通知さるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ貴顯の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は每年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす但書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外每月一回とし總會は三月に之を開く若し臨時の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二に會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但代價は總て實費たるべきこと）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第二十一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第二十二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第二十三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事の檢印を要するものとす●第二十四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●二十五條　地方に於て本會會員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第二十六條　本會會員にして支會を設立せんとするときは[illegible]報告して申出べし設立後會員數の增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第二十七條　支會は本會に[illegible]限りの會員を置くことを得●第二十八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會の會員にして本會雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第二十九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第三十一條　會員又は會員外の者にして書圖若くは物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第三十二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第三十三條　會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局（本鄕區駒込千駄木町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第三十四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費の督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本鄕區駒込千駄木町五十番地　私立大日本婦人衛生會



迷信と人生

文學士　三輪田元道

本日突然の御依頼によりこゝに出席したる次第でありますから、豫備的智識を以て御話することが出來ません、たゞ常識的聴衆の方々に御參考にもならば幸と思ふ生活問題の一部として迷信と人生の關係を御話しやうと思ひます。

迷信は如何なる人にも多少はあるものであるけれど、實は其利益の部分よりも弊害の部分が多い、たとへば全體を十とすれば、若し迷信に利益があれば十分の一にして、其の弊害は慥かに十分の九にも當らうと思はれます。特に婦人は在來の慣習により迷信の盛なるものであるから、世の文化の進むにつれ迷信を打破せねばなりませぬ。然るに近來動もすれば迷信の度を高むるごとき傾向のあるは、或は婦人の自覺を唱へ或は婦人の解放を叫ぶ今日に於てあまり不釣合の事といはねばならぬ。婦人は社會からも解放され、男子よりも解放さるべきであるが、其れに先ち自らより解放され、特に迷信より解放されねばならぬ。未だ迷信に捕はるゝ心的狀態の婦人にして、口にのみ機械的に婦人の解放を叫ぶのは、島田髷の娘が白粉をベッタリ塗りて、足に靴を穿き、手に腕時計をはめ、汽車の中で懐中より懐中鏡を出して紙白粉で鼻の先をなでるよりも今少し不調和である。故に社會より又男子より解放さるゝ前、自己自身より解放されねばならないと思ひます。

先づ迷信の弊害は衣食住より一身の一言一行に至

るまで影響するものなれば、迷信より解放されることは、繩で縛られ手足の自由を失つた人が其繩を解かれたよりも更に幸福となるのであるから、是非共迷信打破につとめたいものである。

凡そ科學的基礎を有しないものは皆迷信である。今日の文化を生み出し又吾々の幸福と安全を作り出すものは自然の理法である。故に說明も證明も出來得るものであるが、迷信は因果の關係を誤り、偶然の出來事を以て必然の結果と考へるのであるから、凡て非科學的である。例へば烏の泣いた時偶々近しき者の間に死人があるとすれば、道理で今朝烏の泣聲がしたといふ風に、偶然の事柄を因果の關係があるやうに思ふのが迷信の常である。成程烏の泣いた時死人のあつたのは事實とするも、それは萬が一に契合する偶然的のものである。故に不斷統計をとれば、烏がないても死人のない方が多いのである。又烏が泣かなくても死人のある場合も決して少くない。要するに迷信は未だ論理的智識や統計的能力や、更に哲學的研究のなき未開時に或は低級的社會の人が氣にする人生の弱點に過ぎない。されば文明の國民といはれ又高等の智識階級に屬するものが迷信のため心を勞してはならぬ。兎に角人は萬物の靈長である　自ら靈長である以上は、動物を崇拜したり又植物に歸依したり或は科學的根柢のない風聞傳說等に信賴するのは自己を侮辱したものである。自己の價値を輕視する者は、婦人の解放とか婦人の向上とかを叫ぶ資格はない。何れにしても人は萬物の靈長であるが故、自己自身を尊重せねばならぬ。自己自身を尊重すれば、自己の生活は自然の理法に從つて安全である。只自己の信賴すべきものは唯一の眞理である。故に人は眞理の支配を受け、否眞理を自ら實行すれば俯仰天地に恥づることもなく、おのづから幸福の生涯を送ることが出來る。古歌に

　心だに誠の道に叶ひなば
　　祈らずとても神や守らん

とあるが、眞に此一首の精神を徹底せしめねば迷信

より解放されるのである。結局人は人事を盡して天命をまつ決心さへして居れば、恐怖もなく驚愕もなく、又不安もなく平和に、幸福に生活することが出來る。然るに自ら好んで迷信の羅にかゝり一生を苦しましむるものは、愚の極といはむよりも憫むべきものであるといふ外ぞなき次第である。以下迷信の實例につきて少々御話を試みやうと思ひます。

先づ衣服についても迷信の弊害があります。例へば新しきもの丑の日に縫ひはじめると仕上げが遲くなるといふが、其原因は牛はのろき動物であるから丑の日に起つた事柄は遲れるといふに過ぎないのである。所が丑の日とか午の日とかいふは、只甲といひ乙といふ如き十二支に附したる符號に過ぎない。故に丑の日午の日はいの日ろの日といつても差支ない、只十二支を具體的に記憶せしむるため動物を配合したに過ぎない。因つて水曜日だからといつて雨が多く降るものでもなく、火曜日だといつても火事の多く起ることでもないと同様である。猶貝白の著物を忌む人がある。其れは死人に白衣を著せるからであらうが其實夏などは白縮などは費用も安く洗濯もきゝ誠に便利である。故に少しもこれを嫌ふ理由がないのみならず、喜んで用ふる様にしたいものである。然るに白の洋服は誰人も忌まぬに、白の和服のみを嫌ふ理由はない。其他衣服について迷信が多い。然し迷信の中には敎訓をも含んで居るが故、低級の人には迷信より注意を導いたに相違ないが、然し今日は強ひて迷信の方便を借り、縫ひ方裁ち方等の注意するよりも科學的に正式の説明を用ふる方がよい。

其次は食物に就ても迷信の爲弊害がある。然し醫學衞生の進歩した今日に於ては、醫者や學者の言葉は神の聲であると信じ、萬事科學的の料理を作り、自己の生命を保持せねばならぬ。例へば或人が赤痢病にかゝつた時、醫者は流動食すら節せねばならぬといふに拘らず、家族の一人が迷信家より赤痢の妙薬は土用の丑の日にとつた木蓮の花を入れ雑炊を煮て

食へばなほるときゝ病人も妙藥と信じウンと多量に食べた處、早速苦悶を起し死んで了つた話がある。迷信を信ずるよりも醫者を信ずれば病氣は速になほる。醫者が見てダメといはるれば天命とあきらめるより外はない。又或處に目の惡い子供があつた。聞く處によれば、親より受けた黴毒性のものにして、容易になほらない、然し根氣よく養生すれば直る見込があるにも拘らず、或人より今日の醫者は駄目である、昔は觀音樣に願をかけ直つた人もあるが、信心が藥よりもよくきく、然し妙藥は一層不思議なものである。凡そ眼病にかゝつたものは八ツ目鰻を常食にせば自然となほるといひ、遂に醫藥を用ふることをやめ、毎日〱八ツ目鰻を食べて居る中に、遂に哀れや盲目となり果てゝしまつた話がある。恐くはかゝる迷信の根柢は八ツ目鰻即ち一尾の魚類に目が八ツもあるのだから、これを食ひさへすれば定めて視力が強くなるだらうといふ想像から出たに相違ない。所が八ツ目鰻は其實泥の中に生活するが故、目の發達は至つて不完全であるのみならず、其八ツあると稱するものは目にあらずして鰓である。因つて此魚は鰓こそ異狀を呈して居るが、視力は不完全であるにも拘らず、動物學の智識を有しない低級の人はかゝる愚を演ずるのである。其他食物に對する迷信のため不幸を蒙つた實例は夥しいから御注意を促したい。

更に其次住宅につきての迷信が最も多い、例へば鬼門の方に家を建てゝはならないとか、坤神樣の方に普請をしてはならないとかいふ類が少くない。然しながら家屋は成るべく高燥な處にたて、光線がよく當り、空氣の流通がよければ充分である。それを強ひて迷信的に理窟をつけなくてもよい。それよりも一層氣の毒なのは、轉宅するにも方角の善惡をいひ、甚しきはおばけ屋敷などゝ稱する所も出來、相互にどれだけ迷惑するかもしれぬ。普通丑寅の方向即ち北東のスマを鬼門と稱し恐れるのであるが、本來鬼といふ想像は、角のある牛と力の強い虎とを結びつ

けると出來るのであるが故丑寅を鬼門といふに過ぎぬのであつて、若し丑寅の方向が地球に磁石力のあるが如く一種の現象を表はすものであつたならば、東洋に限るべきものでない、西洋諸國に於ても同等であらねばならぬ。凡て眞理は普遍的のものでなくてはならぬが故、東洋で眞理は西洋でも眞理である筈である。然るに東洋で鬼門を忌むに拘らず、西洋で何事もなきは迷信の證據である。水は水素の二と酸素の一が化合して出來る故に、東洋の水も西洋の水も化合量に變化はない、此に於て水の本質は世界的に眞理である住宅に屬する事件が世界共通のもので或部分こそ眞理である、例へば日當りのよきは何れに於ても歡迎される。之と同じく鬼門を恐るゝ事も、東西共通なれば根柢のあることを許さねばならぬけれども、東洋の陰陽家や或は干支家が假定したものを、更に後世の者が牽强附會の説明を加へたるものを迷信家は動かすべからざる眞理の如く信ずるのである。尤も家相と稱するものにして古來傳へて居る中には、衞生上自ら近世の科學に合するものが少くない。さりとて今日に於ては强て迷信的の傳説を其儘うけつぐよりも、之を科學的に説明した方が正當である。故に家は光線空氣等住み心のよきものであれば上等である、決して家相家の口を煩すに及ばないと思ふ。

現に或處におばけ屋敷と稱するものあり、これに住む人がなき爲め土地の價格が法外に安い。處が近世の科學を信じ、迷信の絕無なる人がこれを安く求め、其雜草を拂ひ、見るからに住みごゝろよき家を建てゝ其中で生活したが、衞生狀態のよきため家族健全にして、段々子孫も殖え又財產も增した實例がある。其時は近隣の人は今更ながら羨しがり、自分たちも迷信さへなかつたならばあの處に住めば幸福になつたものをと悔いた。然し機會は再び來なかつた、又或處におばけ家と稱するものがあり、眞夜中頃に其棟の方向にむかつて轟然たる大音がする故これに住む者がない、處が或科學思想の發達した人が

こゝに住み、其音の原因を研究したら、驚くなかれ古家なるが故鼠も多く、從つて貂やいたちの巣があつた。よつて天井裏を清潔に掃除し、是等の往來する道をふさいだから、かゝる怪しき音はぱつたり止んだ。迷信の恐なることはかゝる實例を見ても悟ることが出來やう。

其他衣食住の外、吾々の一般生活に伴ふ迷信は少くない。例へば夫婦喧嘩をする者は、喧嘩の罪自己に缺點のあることを知らずして、吾々は火性と水性の結合である故合性がわるいといふ類が少くない。然し各自が修養さへすれば喧嘩は止む。若し修養を怠らば木性と土性の結婚でも駄目である。

由來迷信が多く干支から來て居る。實は十干は木火土金水を兄弟に分ちたるものにして木兄木弟火兄火弟といふ風に分類したがもとである。然し天地間の元素は此五行に止まるものでない、今日の學問によると天地間の元素は八十以上もある。それを單に木火等の五元素に天地間を分類したる事は幼稚な思想である。猶印度に於ては天地の元素を地水火風の四に分つた、これ又大づかみの單純な思想である。結局年月や方位を計上するため用ひたる符號が或は十干となり或は十二支となり、之を具體的に記憶せしむるがため動物を配合したに過ぎない。故にＡＢＣ等の符號を以てするも、いろはの符號を以てするも或は一二三の符號を以てするも差支ない道理である。然るに配合した動物の性質が其方位や年齡に關係ありとするは迷信のためである。例ば猪は猛獸である故に亥年の人は烈しいといふけれども、支那の或地方に於ては亥年といはずして亥の代りに豚を用ひて居る。若し日本に於ても亥に代るに豚を以てせば、豚の年の人はのろまであるといはなければならぬ。何れにしても十干十二支に配列した物質及生物と人間との間に因果の關係はない。然るに普通の丙午の人は烈しい、殊に此年に生れた女は夫を殺すといふ迷信がある。何が故にかゝる事を言傳へたかと尋ねると、原因は簡單である。即ち火の兄と活潑な

る馬とを連絡すればおのづから猛烈なる聯想を起すが故、丙午の女はこわがられるのである。故に丙午にしても幸福にして至つて柔和なる婦人の實例を擧げたならばいくらもある。因つて迷信を打破せんとせば、須らく其反對の事實を擧ぐるがよろしい。眞理には取りのけのない筈である、若し取りのけがあつたとするならば眞理ではない。例へば東鄉元帥は丙午であるけれども溫厚なる尊敬すべき性格の方でないか。又石黑男爵夫人、森村男夫人及星野文學博士夫人等は皆女性の模範たるべき人であつたけれど丙午の人であつた。かくの如く反對の事實を引用せば迷信はおのづから打破されるのであるから、自ら工夫して迷信より逃れるがよい。

迷信には發音から來るものが少くない。例へば四十二は死に通じ、十九は苦に通ずるが故嫌ふのであるけれども、四十二歳にして幸福の人が數々ある、又十九にして結婚し幸福の家庭を作りし人が少くない、是等は皆統計の示す所である。或處に四九八九番の電話があつた。これは四苦八苦に通ずる故に買ふ人がない、所が利口な鰻屋があつてこれを買ひ、四九八九番を四苦八苦といはず、これを善く燒く（ヨクヤク）と稱へ、緣起のよい電話番號といはれるやうになつた話がある。又昔正月元日或家の門の門松に癲癇病みの女が來て、其松にもたれ泡を吹きつつ苦んで居つた處が、當家の主人が甚だ不吉と考へ、鶴龜と稱へながら蜀山人の處にゆき、先生私方は大變です、今年一ぱいは不吉な事が多いでせう。なせなれば元日からかく〳〵の次第であると申たら、流石は蜀山人である、ニコ〳〵と笑ひながら、それは不吉でない、馬鹿に緣起がよいではないかといへば、主人は忽ち顏色を變へほんとうですかときいたらば、山人は忽ち筆硯をとりよせ、左の一首をかいて渡した

門松にもたれて泡をふくの神
これぞまさしくべざいてんかん

辨財天とは美人を意味し、てんかんとは癲癇に通ず

る。吹くとは福に通ずる爲である。斯の如く同事質を縁起よくも亦縁起わるくもとることが出來るのであるから、人は發音相通ずるために迷信を起してはならぬ。故に申の日結婚するは去に通ずるから忌むとか、酉の日結婚するのは取るに通ずるとかいふに過ぎぬのであるから、迷信は全く兒戯に過ぎざることを悟らねばならぬと思ひます。

右の外迷信の原因等につき、自分は昨年教育博物館に於て催された家事展覽會に於て其要領をしるし公衆に分ちたるものがある、其後種々の方面より其印刷物を呉れと此頃又刷物にして有志の人に分つた次第であるが、なほあまりの印刷も多少あるから、思召の方があるならば迷信打破の栞と稱する刷物を進呈いたしまして差支ない、どうぞ御遠慮なく御申越願ひます。

今日の御話は迷信の事を主として述べたけれど、其實は人殊に女子は自重心を必要とせねばならぬ、然るに下らない迷信のため自己の生活を不幸ならしむるものが少くないのを見て、如何にも氣の毒に思ふ。今後ほんとの意味に於て自覺せんと思ふものは、先づ自ら聰明でなくてはならぬ。然るに迷信のため煩悶する如き人があつたならば、如何に自ら價値なき者かを反省して、卓越したる見識を有し、幸福も平和も自己の作業であることを徹底的に悟るやうに皆様がなられんことを希望するために二三思ひついた事を御話したのであるから、自分の志のある處を御推察あらんことを望みます。今日は先づこれにて失禮いたします。（拍手）

叢談

「トロピズム」

醫學士　淺田一

一

羊頭を掲げて狗肉を賣るといふことがありますが私は「トロピズム」といふ様なえらさうな標題に對しては此の誹を免れないことを恐れて居ります。然し私が今書きたいと思ふことは外に題の付け様がないので、取敢ず此の題名を拜借したのであります。

二

「トロピズム」は皆様も御承知の通り、植物で申せば、幹や葉が日の當る方へ繁つて行き、根が益々地中に侵入して行く様な向日性又は向地性等を指して名づけた學名であります。動物で申せば矢張り日光の下に集まるのもあれば、陰影を好むものもあり、陰陽の電氣に向つて走るもあれば、化學的刺戟に向つて動くのもあります。

三

動物の行動は從來種々に説明せられました。或人は快樂を求めて行動すると申して居りますが、自分が勝手にする行動ならばそれでも説明出來ないこともありませぬけれども、電氣刺戟の結果、自分の心ならざる運動を催起せられる場合には説明し難いのであります。かゝる時は此の電氣刺戟を避ける様な意味もなく、又刺戟中或る行動を取るに際して毫も快感を生じないのであります。

四

或人は動物の行動は企動と失敗とを反復して遂に目的を達すると申して居ります。之は甚だ面白い説明で御座いまして、蠅が何か食物の上に止るに致し

ましても、先づ遠方の方から漸次近方にあちらこちらを飛びながら近寄つて參ります。食物から出る香氣の濃厚な所に行く程飛びあるく範圍が限られて參りまして、遂に食物の上に止るに至るのであります。私共が學問の研究をしますにも、矢張り此の企動と失敗とを反復して、初めは茫漠たる研究方法の範圍を漸次狹くして、遂に正しき成績を得るに至るのであります。人間界の行動なども此の說明法を觀察すると興味津々たるものがあるのであります。しかし之は哲學的思索でありまして、科學的根據が薄弱であるといふ誹を免かれないのであります。なぜなれば、石を空中で落すとポツント地上に落ちるに反して、鳥の羽はヒラ／＼と空中に翔りながら徐々に地上に達するのは、恰も企動と失敗とを反復して目的地に達するの觀がありまして、この無生物の行動をも自發的意志の發動で說明するやうな滑稽に陷るのであります。

五

最近に於きまして、動物の行動を說明するに最有力なる學說は「トロピズム」說であります。實驗生物學と申しまして、動物の腦や神經を種々の場所で切つたり傷けたり、電氣や光や化學的刺戟物を種々の生物に働かして其反應を檢査し、生物の生理又は病理を檢索しやうとする學問が非常に進步して參りましたので、生物が自分の意志に從つて完全なる行動を取り得る樣な觀のあるのは、生物が多くは左右相稱的に作られてあるからであるといふことが分つて參りました。例へば犬の腦の右の方を傷けますと、其犬が眞直に前進出來ませぬ。進まんとすれば右に偏し、遂に右旋りを一回してしまふ樣なことになります。之は自分でしたくもないが、右の腦を切られた爲にかゝる強制的行動を取る樣になるのであります。即ち眞直に步けるのは兩方の腦が共に完全に、左右の筋肉に同一の緊張を與へて居るからであることが分るのであります。幾多の動物實驗の結果は、外觀上制約なき正規の行動は、只今申しました樣

な强制的行動が複合して平衡を保つて居るからであることが分るのであります。換言すれば手なり足なりを動かすべき腦中樞に於ける化學的變化が是等の運動を促しまして、其宜しきを得た場合が平衡を得たる行動なので、つまり平衡される「トロピズム」に基因して居るのであります。外に顯はれたる行動のみならず、疾病其他外界の變化に應ずる細胞や血液の變化も、今迄不思議に思はれて居たことが「トロピズム」を易々と說明出來ることが澤山御座いますが、餘り專門的になりますから其等のことは此誌上では申上げませぬ。

六

「トロピズム」には企動だの失敗だのはないのであります。例ばある强さの陰電氣に對してある動物が動とすれば、それは何時如何なる場所に於てゞも違はないのであります。違ふ時はその電氣の强さが違つて居るのであります。ある酸度に於て起る變化は、常に其酸度に於て起り、他の酸度では起らないのであります。蠅が食物に向つて走るのは、初め適度な臭の刺戟が來ないから、大きな廻旋飛行をやつて居ますが、刺戟が濃厚になれば驀然に食物に向つて走るのであります。但し彼も命が惜しいのですから、飛行の途中その複眼に映る恐るべき影に對する驚怖から容易に食物に近づかないこともあるのであります。

七

自由意志や思索の發達した人間では、此關係が中中複雜で、單に「トロピズム」で一切を解決することは出來ませぬ。然し動物界を支配する「トロピズム」の關係を眞に能く領解したならば、人事も亦領解出來はしないでしやうか。德孤ならず必ず隣ありといふのも一種の「トロピズム」ではないでせうか。日比谷へ能く彌次馬の群集するのも一種の「トロピズム」ではないでせうか。

八

私は常にかう思つて居ります。男女同權は女の主

張し度いことだが、之は男から云ふべきものであると同時に、男尊女卑は男の言ひ度いことだが、之は女に云はせるべきものであると。男が男尊女卑を唱へて、女が男女同權を唱へましては兎角男女の衝突が起ります。女は何處までも男尊女卑說を唱へ、男が何處までも男女同權を唱へましたならば、男女の問題は圓滿に解決出來るのではないでせうか。

「デモクラシイ」は大變結構で御座いますが、之を下級勞働者が唱へては國を危くする基であります。と云うて政府が官僚主義で納まつて居りましては、之亦國家が治まらないでせう。政府が人民を本として「デモクラシイ」主義を取り、人民が自分の本分を辨へて何處までも官僚主義を憧憬する樣にしたならば、世は平穩無事ではないでせうか。先生は何處までも自ら勉めて子弟を指導すると同時に親しみを深くし、生徒は先生に對し何處までも三尺師の影を踏まざる尊敬を拂ふといふ風でありますこと、傍から觀て誠に愉快で御座いますが、先生が無茶苦茶に威張り散らして、生徒が陰で先生を罵る樣では不自然で、傍から觀ても不愉快であります。かういふことは今日の所では未だ「トロピズム」を說明することが出來ますまいが、甚だ「トロピズム」に似る現象であります。

九

何となれば其本來の性質に從つて行つた時は、極めて無事でありますが、人爲的に此の性質を濫用すると、互に衝突が起り又は禍を生ずるのであります。飛んで火に入る夏の蟲は「トロピズム」に誤られて禍を醸す例であります。男が女を勞はり、女を自分と同列に引き揚げやうとするのは本來の性質で、女は何處までも昔からいふ三從を服膺するのが自然であります。然るに男が女を勞はらずして之を蔑視し冷遇するとか、女が男に從はずして自ら男と同列に立たんとするのは自然の法則に戻つて居る。換言すれば「トロピズム」に反して居るのではないでせうか。外の事象も凡てかくの如くにして說明出來る樣に思は

れます。

十

一つの生體は幾多「トロピズム」の平衡を俟てる複合であるが如く、生體の群集である社會に於ても幾多の「トロピズム」――と假に云して下さい――が行はれてあつて、それが互に平衡を保つて居る時に安定な平穩な社會が成立するので、若しこの「トロピズム」の平衡が破られると不安、不穩等が起るのではありますまいか。丁度我々が眞直に歩行出來るのは、左右の腦から筋肉に及ぼす作用が全く同一で平衡を保つて居るからでありまして、左右何れかの腦に故障のある時には眞直に歩行出來なくなる樣に、男からは男女同權を主張し、女からは男尊女卑を保持し、兩方の強さが均衡を保つて居る時は、男女は圓滿なる社會を形成し得るのでありますが、若し何れかゞより強いかより弱い時、例へば男の男女同權を主張する程度が弱り却て女の之れを主張する方が強かつたり、女の女卑說が弱く反對に女尊男卑的になつてこの平衡が破れますと、社會の平和は破られてしまうのであります。要するに本來の天賦の性質を理智の砥で研きさへすれば、自分の「トロピズム」の向ふ所を自覺することが出來、各人が之に服從することに由て社會は平和になり、不安だの不穩だのが絕滅してしまふと私は思つて居ります。又世の上に立つ人は下級者の「トロピズム」の自覺を誘導し、國家の安寧秩序を謀らずばならぬと思つて居ります。空論めいたことを長々と書きまして失禮致しました。

（八―八―一一）

魚肉と虎列拉

醫學士　篠原昌治

魚肉は本邦人の食膳には最も廣く用ゐらるゝものでありまして、殊に諸種の宴會等にはなくてならぬものとせられて居りますけれど、一旦虎列拉病が流

行し始めた際には、魚類は非常に危險なものとして多くの人は可成之を喰べぬ樣に致します。本年も未だ餘り多數ではありませんけれど、處々に虎列拉病が發生し、其爲に魚類の需用が著しく減少したと云ふことでありますから、今爰に虎列拉病流行時には魚類は如何なる程度に危險であるか、又之を危險のない樣にするには如何にすればよいかと云ふことに就て御話申上げたいと思ひます。

虎列拉病流行時に魚類に對する意見は、流行の程度により一樣ではありませんけれど、同じ程度の流行でありましても亦各人により著しく其意を異にするものでありまして、未だ其流行の甚しき猛烈でない場合には、一方には少しも之を危險視せず、如何なる時と場所に於ても魚類を何等顧慮することなく喰べると云ふ、極めて樂天的のものがあるかと思へば、他方に於ては生の魚は申迄もなく、煮又は燒いたものでも全く之を口にせず、甚だしきは魚類は一切使用しないと云ふ樣な用心深き人もあります。然し一般に虎列拉病流行時には生の魚は喰べてはならぬけれど、煮又は燒いたものなら喰べても差支ないと云ふのが最多くの人の意見の樣であります。

元來虎列拉病は一種の黴菌によつて發生する急性傳染病でありまして、其黴菌卽ち虎列拉菌は患者の排泄物、殊に吐物、糞便等の內に無數に存在して居りますから、若し其汚物を河流や海水で洗濯し、又は其中に投棄した場合には、是等の黴菌は水中に混入し、從て其中に生棲する魚類は虎列拉菌を含有する水を飲み、又はこれを身體に附著して居ることがありますから、其等の魚類に頗る危險なものでありまして、これによつて虎列拉の傳染を來すことのあると云ふことは疑ひもなき事實であります。

既に虎列拉の黴菌が魚類に附著して居ることがあるとすれば、虎列拉の流行時に生の魚を喰べることは頗る危險であると云はねばなりません。然しそれでも生の魚は常に喰べてはならぬと云ふものではなく、其魚が全く虎列拉病を有せざる地方の海で捕れ

たものであつて、運送途中に於ても何等危險のある場所を通過したものでないと云ふことが確實である場合は、これを生食するも差支ないことかと思はれますけれど、其他多くの場合に於きましては、其魚が何處の海で捕れたものかも解りませんし、從て其魚が病毒を有する危險なものであるかないかと云ふことも不明でありますから、可成これを生のまゝでは喰べぬ方が安全であります。若し其魚が確に危險地の海で捕つたものと云ふことが明なる場合には、必ず之を生では喰べぬ樣にせねばなりません。

虎列拉流行時に生の魚を喰べても差支ないと云ふ人の中には、たとへ其魚が危險地から來たものであつても、喰べる前によく洗滌すればこれに附著して居た虎列拉の黴菌は悉く洗ひ去られて何等危險がない樣になると云ふ樣に考へて居らるゝ人もある樣でありますけれど、それは大なる間違でありまして、若し其魚に黴菌があつたとしますれば、それは單に水で洗つただけで全く其の危險を除去することが出來るものではありません。何となればよくこれを洗滌しますれば黴菌の大部分は洗ひ去られて、全く洗滌しないものに比すれば危險の程度が少くなることは明かなる事實でありますけれど、元來黴菌の如く肉眼で視ることの出來ない程微細なものは、其何處かに粘著して居りまして、何程洗ひましても悉く之を除去することは容易に出來るものではありません。若し其少數のものでも殘留して居りまして、夫が人體に入りますれば直ちに本病を發することがあるからであります。

魚類は煮るか又は燒いて喰べれば少しも危險はないものかと云ふに、元來虎列拉の黴菌は熱に對して抵抗力極めて弱きものでありますから、魚を煮又は燒くときはそれに附著して居た黴菌も悉く死滅するものであります。夫故煮又は燒いた魚を喰べても少しも危險のあるべきものではありません。

斯く煮又は燒いた魚は危險なきものなるに係らず、魚類は危險であると云ふて、全く之を使用せぬ

ものがありますが、それは事理を解せぬものゝすることであつて、全く無意味のことであるかと云ふに、決してそうではありません。今爰に魚屋から魚を買ふとしまして、先づ其魚を皿又は鉢の類に入れ、之を手又は箸等にて取扱ひて煮又は燒きて喰べると致しますれば、之を喰べる際には魚そのものは少しも危險もない樣になつたとしましても、若し其魚の外部に虎列拉菌が附著して居たものでありますれば、其黴菌はこれを入れた皿、鉢又は之に接觸した手、箸等に附著しまして、それが直接又は間接に他の食物より人體内に侵入して本病を發する危險があります。夫故虎列拉流行時に魚類は危險であると云ふて、全く之を使用せぬと云ふことは多少意義あることであります。

然らば是等の危險は之を豫防することが出來るか否かと申ますに、これが豫防は決して困難なことではありません。今爰に魚屋から魚を買ひ取つた場合に、之を一定の容器、例へば皿、鉢等に入れまして、手で直接之に觸るゝことなく可成速に箸等にて之を鍋に入れて煮るか又は燒くかしまして、其皿鉢箸等凡て魚類に接觸したものは直に熱湯にて消毒するのであります。斯くすればたとへ其魚類に虎列拉菌が附著して居たとしましても、其魚に觸れたものは凡て熱氣によつて消毒せられますから、夫等は悉く死滅しまして何等危險を來すべき理由はありません。然し斯る注意を行ふは、馴れない人には隨分面倒なことでありますから、そうまでして魚を喰べるよりも、寧ろ喰べない方が安全であると云ふ人が多い樣であります。

然し世の中には之だけの注意をしても未だ危險だから魚は門内へ入れぬと云ふ人があります。其人の説によりますれば、魚屋が參りますれば、其魚の上に蠅が集まるから、若し其魚に虎列拉菌が附著して居たとすれば其黴菌が蠅の足や身體に附著しまして、其蠅が他の食物の上に止まる時にこれに黴菌を附著せしめ、從つて本病の傳染を來すべき危險があるか

らと云ふのであります。

これは理論上は至極御尤のことでありまして、少しも批難すべきことではありませんけれど、若し夫程までに考へますれば、それは魚のみの問題ではなく、寧ろ蠅と云ふ問題になるかと考へられます。蠅は病毒の媒介をなし、極めて危險のものでありますけれど、蠅は常に一定の場處に住居するものでなく、何處へでも轉々飛行するものでありますから、假令自分の家へは魚屋を寄せ附けぬ樣に嚴重に警戒して居りましても、近隣の家へ魚屋が參りまして、其魚の上に集つた蠅が飛んで來ることもありますし、又時としては虎列拉患者の汚物の上に止まつた蠅が來ると云ふ樣なことがないとも限りません。蠅による傳染は頗る危險でありますけれど、其危險を豫防するには魚屋を寄せ附けぬと云ふよりも、寧ろ蠅を驅除し且之を食物に止まらせぬ樣にすることが大切かと存じます。

虎列拉流行時に魚類を喰べてよいかわるいか、又之を喰べるとすれば如何なる點を注意すればよいかと云ふ問題は、大體これ迄申上げた通りでありますけれど、又一方に於ては虎列拉病流行の程度を參酌して考へることが最も必要であります。本病患者が少數である場合には、其病毒の傳播も狹少でありまして、左程危險ではありませんけれど、患者の數が增加するに從ひ病毒が到る處に存在する樣になりますから、特に注意をせねばならぬことゝ存じます。

今假に東京に少數の虎列拉患者が發生し、東京灣で捕つた魚類が危險であるとしました際に、生の魚を喰べてよいかわるいかと云ふに、其魚が危險地で捕つたものか否かは素より不明であつて、たとひ危險地で捕つたものとしても、東京灣の水は無限に多く、之に混入した汚物の量は極めて少量のものでありますから、東京灣で捕つた魚の中にたとひ危險なものがあるとしても、それは極めて僅少のもので、此際東京市に販賣せらるゝ魚類の大多數は無害のも

のであるから、これを生の儘で喰べても差支ないと云ふことも全く無理からぬ說ではありますけれど、たとひ如何に少數でも危險な魚類があるとしますれば、不幸にしてその危險なるものに出合ひ、これを喰べて發病せぬとも限りません、而して若し本病に罹りますれば本人の生命の危險、家族の迷惑は申迄もなく、公衆衞生上多數の人に多大の迷惑を懸けることではあるし、又一方から云へば人間は生の魚類を喰べぬとて榮養上何等差支のないものでありますから、斯る場合には先づこれを喰べない様にする方が安全かと思はれます。

然しながら此際煮又は燒た魚類はどうであるかと云ふに、夫迄も喰べぬと云ふは餘りに用心に過ぐるものではないかと思はれます。それは他家で調理したものならば殆んど危險がないものと云ふて差支なく、若しそれでも蠅其他の理由により危險があるとしますれば、それは單に魚のみに限つたものではなく、野菜其他凡ての食物に同様であるから、特に魚なるが故に喰べぬと云ふ理由は存在しないことゝ思はれます。又自家で調理するとすれば魚自身は無害でありましても前申した通り魚の容器其他これに接觸したものから來る危險がないとも申されませんけれど、それは比較的稀なことでありまして、未だ甚しき流行を見ざる時期に於ては、斯ること迄心配するに及ばぬことかと思はれます。然したとひ稀なことではありましても、全然危險がないと云ふことが出來ない以上は、之に向つて充分注意せねばならぬと考へらるゝも決して御無理とは申されぬことゝ存じます。之に反し虎列拉の大流行を來した場合には、病毒は到る處に蔓延して居りまして頗る危險でありますから、之に對する豫防上の注意は頗る嚴重なるを要するものでありまして、從つて魚類に對しても大に警戒する必要があります。即ち生魚は一切之を口にせず、又煮又は燒き用ふる場合には必ず之に蠅を止まらせぬ様にし、且可成速に燒き又は煮まして、其魚類に接觸した器物等は嚴重に熱氣消毒をせねば

なりません。然し斯る場合は單に魚類に就てのみでなく、果物野菜其他の食物に就ても殆んど同様の注意を要するものでありまして、殊に食器を洗ふ水までも一旦煮沸したものを用ふるのでありますから、此際は單に魚類のみを警戒すべきものではなく、凡ての飲食物に就て多大の注意を要する次第であります。

要するに虎列拉流行時魚類に對する注意は無謀なる放任主義を戒むべきは勿論でありますけれど、さりとて小心に過ぎて徒に不便や徒勞を忍ぶものも餘り賞揚すべきことでもありませんから、よく其流行の程度に應じて危險の有無を顧慮し、適宜の處置を取ることが最も肝要であると存じます。

病氣と氣の持方

醫學博士　佐々木秀一

盃の中の蛇の影を飲んで

昔かういう話がありました。ある時ある人が客を招いて酒を御馳走しました。ところがその客が注いで呉れた酒を飲まうとすると、盃の中に小さい蛇が居ました。しかし客は思ひ切つてその盃を飲みました。それからその人は病氣になつて毎日うつ〳〵と日を過ごしてをりました。するとと客を招いた人がその話を聞いて心に思ひ當ることがあり、又甚だ氣の毒に思つて病氣になつた人をも一度家に招いて、前に坐らせたところへ前と同様に坐らせ、前と同様に盃をすゝめました。そしてその盃の中に蛇が寫るだらうと云ひますと、なる程盃の中に蛇が寫つてゐましたそれは丁度その盃に映るやうなところの長押に弓が懸かつてゐて、その弓に蛇の彫刻がありまし

た、盃の中の蛇は實はその彫刻の蛇の影であつたのであります。そこで主人はあなたの病氣の原因はこの蛇の影であると云ふ話をしました。ところがそれから客は氣が晴て、病氣が治つたと云ふことであります。

氣が晴れて直に病氣平癒

氣から病を作るといふ事柄は多くこのやうな種類のものであります。私が日常診察し治療してゐる患者の中にも、これに類した例は隨分あります。例へば肺結核患者であります。既に治療狀態に向つてゐながら、自分では依然として重症であると心得て氣に病んでゐるものが澤山あります。このやうな患者には醫學上からその理由を說明してそれを患者自身が心から得心すると、それで直ぐに健康に復したやうな狀態になります。

又も一つの例を擧げると、痰咳が出る結果胸に痛みを覺えて、肺でも壞された痛みのやうに考へ、不安の狀態に陷つてゐるものも往々あります。このやうな患者には肺が惡いのではなく、胸の筋肉の痛みであつて心配することはないと說明してやつて、患者自身得心が出來ると、藥や手當を施さなくても忽ちに治るやうな事があります。このやうな例は一々數へ擧げることが出來ないほど澤山あります。

精神の集中作用は恐ろしい

一體人間の精神作用は、これを漠然と散漫に使つてゐれば極めて鈍いものであります。けれどももしこれを一つの方向に集中させるとその作用は甚だ鋭敏なものとなります。その狀態は恰も光線などの作用とよく似てをります。弱い光線とてもこれを「レンズ」で一所に集めると明るい光を得られます。かの彫刻師などは夜分そのやうにして仕事をしてをります。又晝間の日光でも、これを「レンズ」で一點に集めると紙が燃え出すほどの力を持ちます。人間の精神作用も丁度それと相似たもので、一點に集中すれば甚だ強い働きを表はします。例へば讀書してゐる際でも、精神を集中してかゝると、よく理解しよく記

憶することが出來ますが、これに反して散漫に頭を使つてゐると、理解することもなく、記憶することもありません。

けれども又精神を一方に鋭く集中すれば、集中しない他の方面には甚だ鈍くなるといふことがあります。例へば一心に讀書してゐると時には時計の刻む音も聞えません。よくある話ですが、圍碁に熱中してゐる人は盗人が入つても知らずにゐるとか、煙草の火から疊が燃え出してゐても心付かずにゐると云ふことは有り得るわけであります。

自ら招いて重症に陷る

病氣に關しても亦これと同じで少しも違ひませぬ。少しばかりの腹痛齒痛の如きも、もし心が何かある仕事に熱中してゐる時には、殆んど痛みを覺えませぬ。これに反して他のことには一切意を向けず、たゞその痛みにばかり精神を集中させてゐると、痛みは益々過敏になつてきて、齒痛ならばずき〳〵痛んで、脈管の搏動を覺えるやうになり、腹痛ならば腸が動くのを知覺して腹の中が脹れ上つたやうな感じがしてきます。胸の痛みでもあると、その痛みはだん〳〵大きくなり胸の中に穴でもあくかのやうに覺えると云ふやうなわけで、精神が過敏になつて一心に病氣といふものに集中すると、生理的にまで變化を及ぼして些細な病氣でも大病となるのであります。かやうな事柄が氣で病を起すといふことの主なる理由であります。

俗間で流行する誘導法

從つて又一見大病のやうな病氣もある程度までは氣の持ち樣で治ることのある理由となります。この種類の氣の病は俗間にはかなり多くあつて、それらは適當な醫療によつて容易に癒すことも出來るのでありますが、もし診斷の當を失ふと隨分大病と誤る場合もないではありませぬ。それ故時としては醫者が誤診した氣の病が神樣の水で治ると云ふことも有り得ることで、一向不思議ではありませぬ。その他近頃よく聞くことですが、氣合術とか、催眠術とか、

加持、呪禁などで治る場合も多くあります。その他まだ例を擧げれば齒の痛む時に頬に梅干をつけるとか、腹痛に芥子を貼るとか、いろ〳〵の病氣に灸を据ゑるとか、或は紅療治があつたり、針、按摩の療治があつたり、「マッサージ」もその一つであり、又氷で冷すとか、蒟蒻で溫めるとか云ふ種類の治療法もあります。これらは誘導法と云ふ方法で、時として多少は原因的にも利いて治療の效能はありますが、大部分は知覺の轉向法で一時苦痛がなくなつたりするのであります。

安らかな精神と根本の治療

しかしこれらの誘導法で病氣が癒つたやうに見えるのは、病氣そのものが本當に治つたのではなくして、種々の感覺が薄らいで痛みを忘れ、丁度病氣そのものが治つたやうな感じを呈するまでの話であります。しかも治つたやうに感ずるだけで、實際は治つて居ないのであります。それならば病氣はどうなるかと云ひますに、苦痛さへなくなれば、棄てゝおいて自然に治つて終ふ場合もあり、或は癒らないけれども、別に害にはならずにそのまゝに濟む場合もあります。

しかし又それとは反對に實際に治つてはゐないものを治つたものと感じてゐて、そのため後になつて一時に惡くなり急に重症に陷つて死を招くやうな場合もないではありません。

要するに一つの病氣があつて、患者の精神作用が著るしく過敏になつて所謂氣の病の形を呈すると、これは本來の病氣の治療上甚だ不都合があります。それ故ある程度までは氣の病は安らかな精神狀態にもつて來なければなりません。そして本來の病氣は根本から治す必要があります。但し病氣の種類によつては自然に棄てゝおいて差支ないものもあると云ふことを忘れてはなりません。

（婦人畫報所載）

齒の衛生

安達一光

齒の構造

齒を一本執つて能く是を見ると頭と足があります、此足のやうな部分は齒根と云ッて、齒によつて一本あるのと、二本あるのと三本あるのとあります、齒根は骨の中に植つて居るものですから口腔の中では齒齦に包まれて居て見えません、見える處は齒の頭の部分卽ち齒冠であります、臼齒の齒冠には咬合面と云ふ、幾つも突起のある凸凹した面を持つて居て、上下の齒が此面で互に摩擦して食物を咬みこなすのであります。

是は外面から見た所ですが、內部を見ると中々複雜な精巧な構造になつて居ます。

齒冠の表面は琺瑯質と云ふ白い堅い――人間の身體の內では一番堅く丈夫な――組織で包まれて居ります、次に齒根の表面は、白堊質と云ふ骨と同じもので被はれて居ります、此琺瑯質と白堊質とから包まれた齒の內部は、象牙質と名ける骨よりも堅い質から成立つて居ります、尙齒の中心には澤山の血管や神經の入り込んでゐる齒髓と云ふ軟かな組織があります。

要之、齒髓は人間の身體にたとへて見ると肺とか胃とか腸とか云ふやうなもの、象牙質は筋肉、琺瑯質や白堊質は皮膚や、「ズボン」や上著のようなもので、齒髓を保護して居るのであります、それですから齒が齲齒になつても、最初の中――卽ち琺瑯質の蝕る時代――は痛まないのですが、漸次內部に侵入して象牙質を破り、齒髓に近く進んで來ると、痛みも冷熱に對する感じも烈しくなつてまゐります。

尙齒は顎の骨の一部分、卽ち齒槽と云ふ處に一本一本植つて居るものでありまして、其間には齒根膜と稱へる血管や神經を有する組織があります、又、此組織中には強い多數の纖維がある爲めに、能く齒槽

と齒根とを結び付けて居ります、それ故、此齒根膜が病氣に罹ると齒が動いて來て完全に物を咬むことが出來ません。

元來、齒槽の骨はつまり齒を固定する爲めのものでありますから、齒が一本でも二本でも拔けて無くなると、其部の齒槽も消失して顎の骨が普通より小さになります、老人になつて頰がこけて凹みの出來るのは齒が脫け落ちる爲であります、齒竝びの惡い人の齒槽は、矢張り齒と同じく不規則になつて居りますから、顎の骨が變形して居ます、齒が恐ろしく前に突き出てゐる人は、同時に顎の骨が大きく突出して居ます爲めに外見が甚だ見苦しいのであります。

齒と顏

齒の色が黑かつたり黃色かつたりするのは、誠に見苦しいもので、どんな美しい顏でも齒の汚ないのは顏全體の美しさを消して了ひます、が其齒の色よりもまだ〳〵顏に關係があるのは齒の竝び方であります、俗に申します亂杭齒とか出つ齒とか云ふ齒竝びは、其人の笑ふ度、物を云ふ度、口を開く度每に實に見つともないものであります、しかし齒竝びが惡いと云ふ事は、外側から見て醜いと云ふばかりでなく、顎の形、顏の形等に大變惡い結果を生じます、殊に子供の時分、顏の骨が未だ盡く完全に出來上らないで、今發育最中であると云ふ樣な時に、若し齒竝びの惡い爲めに齒槽の形が變化する樣なことがあれば、其影響が必ず顎の骨や其附近の顏の骨に及ぶことは明白であります、それに齒と云ふものは單に食物を咀嚼するばかりの機能を有つてゐるのではなく、上下の齒を咬み合す每に、其力が齒根膜に加つて、非常に顎の骨の發育を助けるのですから、子供の時分に相當に齒を使用するのは齒を丈夫にするばかりでなく、顎の骨を發育せしむる原動力となります、殊に上顎に於ては上顎の發育が完全であるや否やが、其附近の骨卽ち外面から見ますと頰とか、目の周圍とか、鼻の附近とか、さういふ部分の發育

に大關係があります、それ故に、齒並びの惡い人のかほの恰好は決して完全でなく、必ず形が曲つて居るとか變じて居るものです。此頃は齒並びを直すことを齒列矯正と云つて、齒科醫によつて、大抵は直りますから、齒並びの惡い人は可成早く——大凡十二三歲から十七八歲位迄の間——に直して貰ふ方が宜しいのです、しかし、それよりも前に、齒科醫と相談して齒並びの惡くならぬ樣豫防することが肝要です、殊に齒の拔け換る時は一本一本脫けたり生えたりする爲めにどうも此時代に齒並びが惡くなり易いものですから、よく注意して生え換りが順當に行はれるやうにしなければなりません同時に、鼻や咽喉に病氣があると常に口で呼吸をする（鼻ですることが困難な爲め）惡い習慣が出來て、矢張り齒並びが惡くなりますから、是等の點にも氣を付けねばなりません。

齲齒

齒の病氣の中で、誰れも知つて居るものは齲齒であります、所が、實際には齲齒にも種類があるし、齒の病氣にも種々ある、痛むのもあるし痛まぬものもあります、齒が痛まぬと病氣がないと思つて居る人もありますが、それは大變な間違ひです。

世の中の人の、百人が九十九人まで齲齒を持たぬ人はありません、何故、そのやうに齲齒が出來るか人の齒といふものは必ず齲齒に罹るべきものか、決してそんな事はありません、齲齒が出來ると云ふのは畢竟衞生上の注意が行き屆かぬ爲であります。

三度の食事後或は間食の度每に、一々、奇麗に口と齒とを掃除する人は殆んど世の中に無いと云ッていゝ位です、若し掃除をしなければ、或はしても不完全であれば、是等の殘片は必ず齒と齒との間に插つてゐて、一晚もたてば口中の唾液と其中に澤山に居る細菌の作用を受けて、乳酸といふ一種の酸を生じます吾々の齒の琺瑯質は身體中で最も硬い丈夫なものでありますが、この乳酸に遇ふと忽ち溶けだして來る、そこへ細菌も繁殖して、漸次內部の方へ方

へと齒を蝕らして行くのであります、齒の表面が少しばかり蝕つた時には氣が付きませんが、稍〻深く蝕ると水がしみる、湯がしみる、遂には齒が痛みだして來ます、時として隨分深くなるまで少しも痛みを起さぬこともあります、故に痛くなつて來た時は、程餘蝕されが進んだ時です。

齲齒の原因である乳酸は、大概口内に殘つた食物から變化して出來るものですが、食物の種類によつて忽ち變化するものと容易に變化しないものとあります、一體に煮たりうでたりした澱粉は乳酸になり易いもの即ち齒を蝕らせる原因となる場合が多いのです、例へば米飯、餅、豆類薩摩藷などは皆是を食べたあとで口内を掃除しないと、早速乳酸が出來て來ます、菓子なども砂糖が變化します爲めに齲齒を作る原因となります。

齒の病の恐るべき理由

齒は三十枚以上もあるから、其中一つや二つ病氣になつても大丈夫であるとは誰れでも考へてゐることでありませうが、それは大變に間違つた考へであります、丁度、手の指は十本あるから、一二本は無くとも宜しい、眼は二つあるから、一つは無くとも宜しいと云ふのと同樣で、無謀も甚しいのであります、齒は元來一枚でも無くて足りると云ふものはない、前齒一枚、奥齒一枚でもそれ〴〵必要に應じて造りあげられたものであるから、一枚でも無かつたり、病氣に罹つたりすると、齒全體としての機能の上に大なる差支へが起つて來るのであります。

若し齒が病氣の爲め其用を爲すことが出來ぬ樣になつて、食物を充分に咬まずに胃に送る人は、必ず消化器病を有して居る人であつて、常に胃が惡いとか腹が痛いとか云ふ樣になります、消化器が丈夫でなければ、榮養が不足になりますから、とても身體を健康にすることは出來ません。

彼の恐るべき結核の細菌は屢〻口の内に這入つて參ります、若しも齲齒があつて、齒髓が腐敗して居ますと、其處から體内に侵入して結核病を起すこと

があります、たとへ直接に齒から傳染しなくとも、齒の惡い爲めに身體が弱くなるから結核に罹り易くなります、それですから齲齒を多く持つた人は肺病に陷り易いと云はれて居ります。

齒が健全であるか否かは、子供に於ては腦の發育に大なる影響があります、統計によると齒の缺けてゐる子供は一般に學課の出來がよくないのであります、齒が惡くてはトテモ優等な學生になることは出來ません。

齒が顏の發育と直接の關係あることは既に述べた通りです。

豫防法

人は、必ず此恐るべき齒の病にかゝらねばならぬでしようか、決してそんなことはありません、其人の心掛け一つで充分に豫防することが出來ます、前に御話した種々な齒の病氣も、要するに總て口內に不潔な物を殘して置くことゝ、口內に細菌が蕃殖する爲めでありますから、齒の病氣の豫防としては、是等の原因物を無くなす工夫をするのが肝要であります、しかし、それは大して面倒な六つかしい事ではありません。

口腔の中を清潔にしておく

此短い、然も簡單な、十二文字で澤山であります、ところが人は却て面倒な手數のかゝる事は比較的忘れずに行ふものですが、簡單な事はどうも忘れ易い、此十二文字も矢張忘れられ易くて困るのです

朝起きると口が粘つて臭いから、誰れでも先づ顏を洗ふ時に口を洗ひ、齒楊子を使ふけれども、朝飯をすましてから亦口を洗ふといふ人は甚だ少い、否、少いより殆んど無いのであります、それ故朝飯の殘片が口の中の何處かにたまつて居るに違ひない、晝飯夕飯と重なると食片は益々多く殘る、殊に齒と齒との間にたまります、そして其夜の中に變化して乳酸となることは免れ難きことであります、是が一日や二日でなく每日々々引續いて出來るのですから、齒の表面が如何に堅く出來上つてゐても、是が蝕ら

ぬと云ふ譯けには參りません。

齒に對して不注意な人も、茶碗や箸は使つた後何時も奇麗に洗つて置きます、僅かの金錢で何個でも買ひ得る茶碗をさほど大切にして、金錢はおろか、如何なる物を以ても再び買ふ事の出來ぬ齒を、かく粗末にするのは何故でせう。

齒は一度でも使用したら――御菓子の後でも、果物の後でも、食事の後でも――必ず其度每に奇麗に洗つて置く事は、人が義務として行ふべき事であります、齒は大切にせよと云ふ事は、軟いもの許り食べて居なければならぬもの〻やうに誤解せらる〻事がありますが、それは大間違で齒も身體の他の部分と同樣に、充分に使用せなければ丈夫にならぬのであります、故に齒に害を與へぬ程度迄は硬いものを咬むやうにしなければなりません、子供に於ても其通りでありまして、何時までも軟かなもの許り食べさせて置いては齒を完全に發育させることは出來ません。

齒の治療

人の身體は、一部分が、少しばかり怪我をしても缺けても、自然と新しい組織が出來てゐます髮の毛とか指の爪とかは切つても切つても延びて來ます、しかし、齒丈けには一度其硬い部分が無くなつて了ふと、絕對に是に代るべきものが新しく出來てこないのであります、故に齒が蝕つたら是に代る何物かを人工的に補充する必要があります、但し是等の人工的の補充をする前には、先づ齒の病氣を治して、其齒がそれより以上蝕らぬことにして置かねばなりません。

齒が痛むとよく賣藥などをつける人があるが、齒の病氣は種類が多いものですから一ツの藥ですべての齒の病氣や痛みが治るものでない、或は却て其病氣を一層惡くしてしまうことがあります。齒は痛みが、止つたからとて其病氣が治つたのではない、膿が止つたからとて其病氣が治つたのではない、病氣の影もない位に全快して再び病氣の起る恐れがなく

なり、又、病氣の爲めに出來た穴に補充をして、元元の形に復さしめた後に、初めて治療されたと云ふことができるのであります。

齒の補充をする、即ち充塡をするには、金とか、陶とか「アマルガム」とか、「セメント」とか、色々のものがあります、然し是等の充塡材料のどれを使用するかといふ事は、齒科醫の選擇に任せねばなりません、何故となれば充塡すべき部分の位置や形や患者の身體の模樣によつて材料を選ばねばならぬからであります、齒が全く拔けてをる場合には義齒を入れます、義齒にも色々の種類がある例へば金とか護謨とかいふ材料で出來た臺を有するもの、或は繼續齒とか金冠とか架工義齒とか云ふ臺の無いものなどがあります、是等は其口腔の狀態に從て作らるべきものでありますから、すべて齒科醫の意見に任すべきものであります。

齒と國民の元氣

齒の病氣が如何に恐ろしいもので、其割に豫防法が簡單なことは大凡御解りになつたことゝ信じます世の中が進むと、人の齒は追々と弱くなつて來ます、吾々の身體は使へば使ふ程丈夫になつて來るものですのに、近頃、食物の料理が行屆き過ぎて軟かなものが多くなつて來ました爲め、齒を充分に使用しませんから齒の發育がいくらか宛惡くなつて行きます、從て齒の病氣にかゝる人も多くなる譯であります。

齒が丈夫であるや否やは、其人の全身の健康に重大な關係があるばかりでなく、延ては其國の國民の元氣、國家の勢力に影響することが決して僅少でありません、獨逸では齒の健康は富國强兵の基なりと考へて、一年數回、各小中學校に於て齒の健康診斷をやつて居る、米國の如きは單に齒の健康診斷ばかりではなく、朝起きてから食事の後に齒を磨く方法まで、丁度體操を敎へるやうにして小學校で敎へてゐます、かくまで歐米諸國では齒牙に對する一般の衛生觀念が發達してゐますのに、我日本に於ては悲

しいかな、まだ充分な注意が拂はれてゐないのであります。

格言に、健全なる精神は健全なる身體に宿る、といふことがあります、然るに、健全なる身體は健全なる歯がなければ、とても是を得ることが出來ません、歯の惡い學生がどうして優等な成績を得ることが出來ませう、どうして立派な人物になることが出來ませう。

手を憂ひ眼を憂ふる如く歯を憂へよ

手を使用せば手を洗へ歯を使用せば歯を洗へ

此短い言葉を守ると守らざるとが、吾々の一生涯より子々孫々に至るまでの幸不幸に影響し、一國の興亡盛衰に關係する所甚だ大なるものがあるのであります。

育兒

幼兒下痢症に對する減食又は絶食の意義

醫學博士　齋藤秀雄

幼兒の下痢に際し醫師が減食又は絶食を命ずる場合が多い、然るに素人考からして、斯樣に絶食させては衰弱してたまるまい又は可愛想だと稱して醫師に隱して私かに食物を與へ、これが爲に取返しのつかぬやうにすることが甚多い如何にも遺憾な次第である、依て齋藤博士が實驗醫報に述べられた所を借りて、その意義を明かに承知して置いて戴きたいと思ふて茲に轉載させてもらうことに致しました。(編者)

幼兒下痢症に對して吾人は日常先づ減食療法を試み、重篤なるものには饑餓療法として數時間乃至二十四時間の絕食を行ふのである。この場合絕食乃至減食は獨り治療上必要なる一方法たるのみならず、種々の有益なる診斷上の意義を包有して居ることに注意するは、實地上大切であると信ずる。先づ減食に就て謂へば、消化不良に罹れる幼兒を診察して、その原因が(一)單純の消化不良症であるか、(二)腸管外傳染(例へば中耳炎、膀胱炎等)のために來れる二次的の症候であるか、(三)或は中毒症の初期であるかを鑑別する必要がある。この際減食を行ふ時は、單純の消化不良症はために輕快するにも拘はらず、腸管外傳染のために起れるものは餘り變化を示さないのである。反之體重の減少、熱發等の症狀更に增進するときは單なる消化不良症よりも更に重篤の榮養障碍に罹れるものと斷定して宜しい。次に絕食に就て謂はんに、重篤なる榮養障碍例へば中毒症狀を呈せる小兒を診察して、その原因(一)純然たる食餌性なりや、(二)或は傳染性なりや、例へば赤痢菌若くは「パラチフス」菌に基因せる傳染性腸炎なりや、(三)或はまた全然病理を異にせる腦膜炎には非ざるかと、その原因的診斷に迷ふ場合が尠くない。この際絕食によりて體溫下降し、諸症著しく輕快する時は純然たる食餌性中毒症と判定し得べく、反之傳染性若くは溫鬱積に因する中毒症は饑餓によりて解熱しない。腦膜炎の場合も亦同樣である。以上は減食乃至絕食が幼兒下痢症の原因を推斷する上に有力なる資料たることを述べたるに過ぎないが、この他豫後をトする上にも重要なる意義を有し、食餌性中毒症に饑餓療法を行ひたる結果症狀輕快し、嘔吐止む時は治癒の望がある。反之輕快せざる場合は極めて重篤なるものか又は末期であることを推定して誤が無い。即ち減食又は一定期間の絕食は、次の如き三樣の意義を有するものである。

(一)治療上有效である。

(二)下痢の原因的關係を判定し得る場合多く。

(三)下痢症の輕重、豫後を推斷し得る。
減食的に絶食は消化不良に對しては、可成早期に斷行すべきで、早く決行するだけ效果が著しく、恐るべき中毒症を防遏し得るのである。しかも我邦に於ては現時尙ほ家庭の事情これを許さない場合多く、病の末期に及んで始めて試むるの止を得ざる有樣であるのは誠に殘念である。

婦人と兒童保護事業

水野和一

歐洲戰亂は、各交戰國婦人の自覺を促して、軍需品製造或は一般産業の上に、婦人の活動の目ざましいものがあつたが、殊に我國婦人の注目すべき點は、戰時中、歐米の智識階級の婦人が母としての自覺に基ける兒童保護運動の活氣を呈した事である。二三の例を擧げると、英國では、昨年春、首相ロイド、ジョルジ氏夫人等の主唱の下に、兒童のための寶石基金の運動に著手し、各方面から寶石、貴金屬の寄附を受け、六月には其の價額一萬九千磅、七月には三萬磅に上つた。この運動の發起者は、この基金によつて、英國各地に亙り、兒童保護機關五千を設置する計畫である。佛蘭西では、婦人團體の手によつて、細民居住地に多くの母親相談所や、牛乳供給所が設けられた。米國の婦人は同國の赤十字社事業に加はつて、歐洲の各聯合國の救濟事業に活動を試みたが、就中白耳義の兒童保護の如き最も效果を擧げ(一)白國兒童を危險地帶より避難せしむる事、(二)食料不足を告げた地方より兒童を他に移す事、(三)白國民避難地に於ける兒童の健康保護、(四)戰地に於ける兒童の安全等各種の保護事業に盡力した。佛國のアーヴルには約三萬の白國民が居るが、こゝには大規模の兒童保護機關が設立せられ、母親の保護、兒童の診療、看護婦派遣等の事業をなし、この中心機關を通じて保護をうくる兒童數は、一ケ月數千に

上つた、米國內に於てはかの戰爭團事業の發展に、母の會、婦人會が兒童の作業を援助して多大の實績を擧げしめた。

かくの如き戰時の社會的兒童保護事業も、要するに歐米婦人が平時の社會事業に於ける訓練に基くものであつて、米國の婦人が、平時、細民居住地の衞生保健施設や、少年少女俱樂部、長屋改善運動等に活動せる其の社會生活に對する理論と熱誠とが、戰時に於て一層、組織的活動をなさしむるに至つたのである。我國婦人の社會事業は向後各方面に著手せらるべきものが多々あるが、兒童保護運動の如きは婦人の手に俟たずしては、解決し難き問題である。年少勤勞者の慰安修養機關設置幼年職工の生活狀態の調査及び生活改善の方法、家內工業の改善等は、當然、婦人の注目すべき問題であつて、婦人の手によりて適當に解決すべき問題である。

（大阪兒童學會第一回總會演說要旨）

家庭衞生

食物は何故大切か

金銀づくめの立派な洋燈を、蒔繪の燭臺に飾つて置ても、若し之に油を注ぐことを怠つたならば、燈火は闇になります。生命なる燈火を燃やす油は、實に食物であります。

人の世に缺くべからざる物は衣と食と住とであると、昔しから言はれて居ます。成る程、衣服も住居も大切であるには相違ありませんが、併し食物の大切なことは、遙に夫れ以上であります。衣服や住居にお金をかけて、食物のことを等閑にするのは丁度洋燈や燭臺を美くして、油のことを忘れたと同じであります。洋燈や燭臺は立派でなくても、油さへ良ければ火は明く輝き渡ります。衣服や住居は一通で

事は足りますが、食物のことは吟味した上にも吟味しなければなりません。

人が生きて居る間は活氣があつて、體は何處に觸れても溫かであります。筋肉が働いて仕事をします。左の胸に手をあてゝ見ると心臟は絕間なく搏つて血を送つて居ます。斯樣な力は一體何處からどうして起るのでしやうか。是れは全く體の内にある成分が燃されて起つて居るのであります。

蒸汽機關を御覽なさい。アノ力や、アノ熱が起るのは、全く石炭が燃されて居るからであります。人の體の活氣を造る原になる物は、蛋白質・脂肪・含水炭素と唱へらるゝ成分であります。

蛋白質とは、肉類・豆類等の中に多量に含まれて居る物で、夫の卵の白味の如きは稍ゝ純粹な蛋白質の種類であります。脂肪は、申す迄もなく、油分でありまして、肉の脂肉や、青魚や、胡麻・落花生等に澤山あります。含水炭素とは、砂糖や澱粉の類と云ふのであつて、專ら穀物・藷類・果物類等の中に多量にあります。

試みにお竈に薪を燃します折に、全く其の口を縮めて御覽なさい、火は決して燃えません。是れは物が燃ゆるには、空氣中の酸素が入用であり、隨つて空氣がよく流通して酸素の供給が充分でなければならぬからであります。夫れから又、煙出が塞がつて仕舞つても、火はよく燃えません。是れは物が燃ゆる際に、炭酸瓦斯の如き不用物が出來て、それが竈の内に籠るからであります。

人の體の成分が燃えるのも全く同樣であつて、此の必要な酸素を空氣中より取り、不用な炭酸瓦斯を外界に捨てる爲に、呼吸器が働いて居るのであります。新鮮な空氣が、衛生上なぜ大切であるかはこれで分ります。

さて蒸汽機關が働いて居る間は、石炭が燃えて無くなる樣に、體が活きて働いて居る間は、體内の蛋白質・脂肪・含水炭素が絕えず消費されて居ます。夫れですから、蒸汽機關が長く働く爲には、跡から〳〵

と石炭をつぎ足さなければならぬと同じ樣に、體がよく働く爲には、其の消費せらるゝ成分を充分に補はなければなりません、其の爲に日々食物が取られて居るのであります。又た子供の樣に盛んに成長しつゝある者では、たゞに失はれた成分を補ふ許でなく、新らたに體の成分を殖やす爲にも、食物が大層必要であります。若しそれを補ふことが不足すると、身體は段々瘦せ衰へて、終には死なければなりません。

人の體の成分には、前に述べた蛋白質・脂肪・含水炭素の外に、**水と鹽分**とがあります。水や鹽分は、蛋白質・脂肪・含水炭素の樣に、燃えて力を出す作用はありませんが、矢張り大切な働をして居ます。ですから食物は此の**五通の成分**を有つて居なければなりません。そこで此の五通の成分を總稱して**養素**或は**食素**と云ひます。

養素の中、**蛋白質はとり分け大切**であります。何故かなれば、生き物の體には含水炭素や脂肪は僅かしかない場合にも、蛋白質は必ず割合多量にあり、そして、此の最も大切な體の成分たる蛋白質を補ひ或は新生するには、必ず食物として蛋白質を取らなければならぬからであります。又同じく蛋白質と云つても、其の種類は數限りなくあるのでありますから、自分の體の蛋白質を造る材料を不足せぬ樣に取る爲には、**一通の食物にのみ偏らぬ樣に**し、色々の食物から之を仰ぐ樣にせねばなりません。脂肪や含水炭素は體內で蛋白質になり變る事の出來ぬ物ですから、幾何多く夫れを食物として取つた所で、蛋白質を補ふ役には立ちません。さりながら此の兩者は、蛋白質の身代りとなつて、力や熱を造る働がありますから、之を取ることによつて、體の蛋白質の消費を幾らか節約することが出來ます。就中**含水炭素**は燃え易いから**力の根源**となるに適し、**脂肪**は熱を造ることが、同量の蛋白質や含水炭素に比べて二倍半も多いのですから、寒い時の食物として最も適當して居ます。

養素は斯く大切な成分ではあるが、卵の白味や脂や葛の樣に、多くは風味も香氣もなく、迚ても夫れのみを食べることは出來ません。そこで此の無粹な、實用一方の養素に味を利かせて、嗜好に叶ふ樣にする物が必要であります。之れを嗜好素と云ひます。

嗜好素は、養素と違ひ、榮養の價は僅かな者であります。併し食欲を催し、又消化液の出で來ることを促し、間接に榮養に利益する所が尠くないのであります。

嗜好素を多量に有つて居る物を嗜好物と云ひます。茶類・酒類等の飲料や、鰹・昆布の「ダシ」等は夫であります。肉羹汁の如きも亦、一つの嗜好物で、榮養の働は尠ない物であります。之を大した滋養物と思ふのは間違であります。嗜好物中、芥子・山椒・薑・唐辛子等の類は、多量に用ゐると、刺戟性强き爲、腎臟等の病を惹き起す恐があります。鹽分の如きも亦多量に取り過ぎると、腎臟は夫れを血液中から省いて尿の成分として外に捨てる爲に骨を折らねばならぬから、腎臟病の人等は、特に之に注意せねばなりません。

吾等が食物として取つて居る天產物卽ち食品なる物は、獨り養素のみならず。嗜好素をも含んで、自から風味や香氣を具へて居ます。動物は夫れで滿足して居ますが、人間は夫れ丈けでは滿足しないで、更に調理し鹽梅して、旨しく食べる樣に工夫を凝らして居ます。之は勿論好いことに相違ありませんが、併し其の爲め餘りに量を過ごして、病氣の原になる場合があります。殊に酒の如き嗜好物に於てそうであります。大に愼まなければなりません。

又天產物に餘りに手を加へ過ぎる爲に、折角其の中に含まれて居る大切な成分が失はれる場合があります。米麥等では、內層は主に澱粉で、其の他の養分は專ら表層にあります。そこで米を精白げると、是等養分と、及び或る大切な成分が、糠の成分となつて失はれます。鷄・鳩等を、精白米のみで養ふて見

ると白米病と云ふ一種の病氣にかゝりますが、之に糠を與へると直ぐ癒るのは、米の或る大切な成分が、糠となつて失はれて居る證據であります。又た長い航海の場合とか、戰の場合等に、餘儀なく、鑵詰にした物のみを食べて居ると壞血病と云ふ一種の病にかゝるが、之れに新鮮な肉や野菜を與へると恢復するのも、矢張り加工と貯藏とによりて新鮮な食品にある大切な成分が失はれる證據であります。

天然の食品を分けて、動物性と植物性との二にします。獸・鳥・魚の肉や、卵・牛乳の如きは、動物性食品であり、穀物・野菜・果實等は植物性食品であります。多少の例外はあるが、一般に動物性食品は水分が少なく、濃厚で蛋白質及び脂肪に富み、含水炭素に缺けて居ます。之に反して植物性食品は、水分が多く、淡泊で、含水炭素に富み、蛋白質・脂肪に乏しいのであります。(是等の關係は卷末の食物分析表を御覽になればよく分ります) 夫れですから此の兩者を適宜に併せ取ること、彼れ此れ其の足らざる所を補ひて、榮養上誠に都合がよいのであります。其他動物性食品は、植物性食品に較べて消化が容易く行はれます。之は木纖維と云ふ不消化性成分が、植物性食品中に多くあるからであります。木纖維は不消化である故に、少量なれば腸に適度の刺戟を與へて、其の運動を促し、便祕を防ぐ效能があります。

斯樣に動・植物性食品は、其の成分が偏よつて居るが、乳汁は例外でありまして、蛋白質も、脂肪も、含水炭素も、鹽分も、皆程よい割合で有つて居ます。夫れですから、子供は之れのみを取つてよく發育して行くことが出來るので、誠に理想的の食物であります。殊に母乳は其の子に取つては、何物を以てするも、代ふることの出來ない榮養上の美點を具へて居る者ですから、愛兒を健全に育てやうと思ふならは、何はさて置き授乳が第一であります。萬止むを得ない場合には、牛乳で育てるのでありますが、母乳に比べて其の成分に相違のあるのは勿論、消毒や、薄め方や、溫度の加減や、迚も母乳のやうな完全な

譯にはまゐりません、まして乳粉等、牛乳以外の代用品を以てすることは絶對に避けねばなりません。牛乳で育てた子ですら、母乳で育た者に比べると發育も概して遲れますし、又病氣に罹つた場合に抵抗力が甚だ弱いのであります、況や其の他の代用品で充分育つ譯がありません。

（内務省衛生局編纂榮養と食糧經濟）

家事に關する理化學的試驗

ヴァンダービルト

本篇はコロンビヤ大學家事化學擔當ヴァンダービルト氏の著であるが、東京女子高等師範學校の學術談話會叢書第三號として譯述されたものである。

一、瓦斯「ストーブ」

（一）瓦斯「ストーブ」中の空氣供給口を閉ちたる後、瓦斯を出し、火口に點火すべし、然らば黄色の焔の上るを見るべし。この焔の上に白き皿をかざす時は、黒き煤煙の附著し始むるを見るべし。これ瓦斯の不完全に燃燒しつゝあるを示すものなり。今試みに空氣供給口を開け、然らば焔は青色に變ずべし。而して前の如く皿をかざす時は煤煙はもはや附著せざるべし。青き焔は瓦斯の完全に燃えつゝあるを示すものにして、かくの如き焔は黄色の焔よりも更に强き熱を與ふるものなり。

（二）「マッチ」を擦るか、小蠟燭を燈して火口の上にかざし、極緩やかに瓦斯を出すべし。而らば異樣なる響をなして、異樣なる色の焔の上るを見るべし。これ卽ち瓦斯は「戻り火」をなしたるにて、今や空氣管中にて燃燒しつゝあるなり。火を消したる後、再び瓦斯を出し六七秒たちて點火すべし。然らばもはや「戻り火」をなすことなかるべし。

總て瓦斯器具、白熱燈、其他の道具に點火する時は、「マッチ」を以て點火する前、常に三四秒間豫め

瓦斯を流出せしむるやうにすべし。『戻り火』は又焔を極小さくする時に起るものなり。

二、「アルコホル」

(三) 卓上焜爐(煮物を温むるに用ふる熱炙爐)の壺の中に大匙に六七杯の木精を注ぎ、點火すべし。注がれたる木精が全部燃え切るに、幾何の時間を要するかを注意すべし。次に前と同量の酒精を用ひて、同じ實驗を行ひ見よ。

酒精の一は木精の二に相當する作用をなし能ふるものなり。

三、「ガソリン」油

(四) 純粹なる「ガソリン」油を二三滴、乾いた壺又は瓶の如き器の中に落し、その壺を湯を入れた鉢の中に置くか又は湯で濡した「タオル」にて包むかして、外部より熱を與ふべし。次に壺の口の邊に「マッチ」の火を近けよ。然らば微かに耳に感ずる位の爆音を發するのみにて、青き焔も上らざるを見るべし。

(五) 同じ「ガソリン」油を小匙に一杯程皿に落し、「マッチ」の火を近づけて見る時は、もはや爆發は起らず、青き焔の上るを見るべし。丈夫な板紙か又は如何なる物にても、空氣を遮斷し得るものを以て、皿を蔽ひて火を消すべし。

以上の實驗によつて、「ガソリン」油なるものは、少量にても其蒸氣が周圍を限られた壺の中の大量の空氣と混和する時は、甚だ危險なるを示すものなり。

故に「ガソリン」油を入るゝ容器は、勿論清潔にして、漏る樣な事なく、液體の表面に空間を作る爲に起る處の前述の如き爆發し易き空氣との混和を防ぐために、成る可く容器を一杯となし置くべし。

(六) 「ガソリン」油が純粹なるか否かは、次の實驗によりて、知るを得べし。

(イ) 色を觀察すべし。色は水の樣に透明ならざるべからず。

(ロ) 清潔にして乾燥せる鞣皮を以つて、濾過すべし。

若し水又は塵の混和せる時は、それ等の物は皆鞣

皮の上に殘るべし。

(六)「ガソリン」油を少量取りて「コップ」に注ぎ、其上に熱湯を注ぎ込み其熱にて徐々に揮發せしむべし(この實驗中は決して室内に裸火を置くべからず)。

若し水、塵又は重油の混入せる時は、油の全部揮發せる後に殘物として現はれ來るべし。

四、石油

石油は製造上更に手數を要すと雖も、其使用上至極安全なる故を以て、普通一般に使用せらる。米國に於ける多くの洲は、石油の危險を防止するために、規定の純粹度に達し居らざれば、石油を市場に出すことを得ず、との法律を制定したり。石油にして華氏百二十五度乃至百五十度の溫度にて蒸發するものは、危險なる石油なり。

この試驗は發火試驗と云ひて、今や紐育洲マッサツチユーセッソ洲其他の洲に於て行はる。

(七)發火試驗、石油を「コップ」に半分程注ぎ、湯を入れたる鉢に浮かして其熱を利用して、華氏三百十二度まで目盛りせる化學用寒暖計は藥屋又は直接に紐育市の Eimeraul Amend に注文することによりて手に入るべし。値段は一弗十仙(我二圓二十錢程)なり。寒暖計にて攪拌しつゝ徐々に製すべし。「コップ」の上に小蠟燭の燈を近づけたる時、青き焔を發して發火するに注意すべし。この時の石油の溫度を石油の發火點と云ふなり。

五、水

(八)熱の吸收體、清水を古き「ブリキ」鑵に入れ、焰の上に置きて、水の蒸發するに至るまで、熱することを續くべし。錫の溶解する溫度は甚だ低しと雖も水の蒸發して容器の空となる迄は、錫は毫も溶解するが如き樣子なきに注意すべし。

これ錫と溶解する熱を水が己を蒸發せしむるために使用しつゝあるなり。熱を吸收する水の偉大なる作業は、共に菓子麵麭の一種なり。「カスタードヤレイヤーケイク」其他を燒く時に利用せらる。即ち窯

の中の溫度を調節するために鉢に滿せる水をその中に置くなり。又熱湯溫室法はこの理によつて行はる。即ち水が熱せられて非常な熱を吸收し、室內を流通する間に徐々にその熱を放散するなり。

(九)沸騰點、寒暖計を用ひて徐々に沸騰する湯と、劇しく沸騰する湯の溫度を各々計るべし。後の方法によりて更に高き熱を得らるゝや、如何?

試みに「ブリキ」罐の蓋をなして蒸氣を遮斷せよ。然らば蓋には强き壓力を感ずべし。この壓力は沸騰點を高むるに援けとなるものか、如何?

(一〇)(イ)錫(ロ)鑄鐵(ハ)「アルミニューム」(ニ)銅、の同じ大きさにして出來るだけ形の似たる容器(蓋は有るもなきも可なり)を取り、各々に一定の水を容れ沸し、各々の罐の水が沸騰點に達するに幾何の時間を要するかを計れ。又熱を吸收し保留する點に於て、各々異なれる容器の相異を比較せよ。以上の實驗中は、戸口、窓等より來る間隙の風にあたらぬやう注意すべし。

(一一)水を澄ます法、汚れたる水を「コップ」に容れ之に少量の明礬を加へて攪拌すべし。然らば綿狀の沈澱物を生じて、徐々に堆積し始むるを見るべし。明礬は通常水を清淨させるに用ひらるれども、飲料水には用ひられず。

(一二)水、醋、其他「キャラメル」の如き液體の色を帶ぶるものは、動物性の炭で濾過すれば除去する事を得、濾過器を造るには、漏斗に脫脂綿の薄き層を重ね、その上に漏斗の三分の二程の處迄粉にせる炭を充塡すべし。

(一三)水中の固形物、清潔で眞白な大皿の中に水を入れ、之を熱して蒸發せしむべし。而して水分全部蒸發せる後に殘れる皿の上の堆積物に注意すべし。續いてこの堆積物を熱して、黑き色と變せる時は、有機物の存在せるを示すなり。

(一四)溶解性、水は大抵の物を溶解する性を有す。溶液とは他の物質を溶解し之を保留する液體を云ふ、試みに、砂糖、鹽及石鹼其他の物を、溫き湯と

冷水とに溶解して比較せよ。
湯又は水を熱すると果して砂糖、鹽等の溶解量を增加し得るや、如何？
注意、湯は砂糖類にて汚れたるものを洗ふに非常によし。脂肪類の洗滌に關しては第二十七節以下を參照すべし。

（二五）硬水及軟水、洗淨用としての水ほ凡そ二種類に分類せらる。卽ち其中に鑛物性の物質を含むや否やによつて、硬水軟水に區別せらる。この硬軟如何は、石鹼を水に溶解することによりて、容易に識別せらる。

先づ少量の石鹼の「アルコホル」に溶解せるものを作りそれを試驗液とすべし。次に試驗せむとする水を罎に入れ、其中に一二滴の試驗液を落し、栓をなして劇しく振盪すべし。若し泡を生じ六七分間放置するも猶泡の殘る時は、その水は軟水なり。石鹼と共に用ふる時には、軟水は直ちに泡を生じ、迅速なる洗滌作用をなす。

若し前の實驗に於て放置する間に泡の消ゆる事ある時は、更に石鹼水を加へて振盪すべし。かく繰返へして放置しても猶凡五分間其泡が存在し得るに到るまで行ふべし。

硬水に於ては其中に鑛物性物質「カルシューム、マグネシューム」を含有するが故に、石鹼を溶したる時、泡を生ずるに困難なるなり。要するに石鹼は溶解して泡を生ずるに到らざれば、洗滌作用をなすに效なきものなる故に、硬水を用ふれば、多量の石鹼を用ひざるべからざるによつて不利益なるは言ふ迄もなし。

矯水法　（イ）普通硬水は煮沸することによつて、軟化せらる。少量の硬水を煮沸して前述の試驗を行ふべし、（ロ）若し變化起らざる時は少量の洗濯用曹達を之に加へて、再び試驗を繰り返へすべし。

總ての硬性は、煮沸するか又は洗濯用曹達又は明礬を加ふることによりて、容易に軟化することを得るものなり。硼砂は往々此の目的の爲に使用さるゝ

も、高價なる上に作用鈍し。

私共の衣食住

小倉道代

小倉氏は近頃新家庭を造られ、實はこれから造らうとして居らるゝ方で、生活の一切を出來得るだけ簡易に、經濟的に衛生的にやらうと云ふ決心を以て、實驗的に人間生活の歩を進めつゝある方ですから、その實驗談は何人にも必ず參考になるべき點が尠くないと信じ、本欄に於てその實際を披露してもらふ事に致しました。(編者)

私はつい先達つて人の妻となつたばかりで、其れ以前には別段之れと云ふ程の家政の經驗もありませず、家事に就てはまことに初心の者で御座いますから、ほかの方々に衣食住のことに就てかれ之れ御話しの出來るものでも御座いませんが、結婚後間もなく主人の發議で私しも贊成して、衣食住の工合を今までとは變へてしまひ、食物は「パン」を主にすること、室の中では坐らぬこと、著物も其れに應じたものにすること、大體に於て、簡單な西洋風のものに變へてしまはうと云ふ事になり、手近な所から段々始ました所が、御知り合ひの方々が宅へ御見えになつては、私共のやり方に興味を持つて下さいますし其の上私共と同じやうな事を御やりなさる方々もありますので、ほかの方々にも御話しゝて見るつもりになりました。

始めに三度〳〵米飯の代りに「パン」を使ふ事にいたしました。なるべくは自分で燒き度いと思ひましたけれ共、それには幾分の準備がいりますので、さしあたり近所の「パン」屋から、買つて使ふ事にいたしました。その内に或る友人が、小石川の關口にある「フランスパン」製造所のものをすゝめてくれました。主人は豫ねてから、此の「パン」が大變上等な物であると云ふ事を聞いて居たのでしたが、私等の所へも配達をしてくれるものかどうかを承知して居ませんでしたので、注文して見やうと云ふ氣にもな

らずに居つたのでした。幸にその友人の話しによつて配達をしてくれると云ふ事もわかり、いかにも味のよいものであると云ふ事もたしかにわかり、價の事もわかりましたので、直ぐその友人に賴んで私共の方へもくばつてもらふ事にいたしました。それまで使つて居た「パン」屋も品がよいと云ふので名高いものでありましたが、新しく來始めた「フランスパン」の方とくらべては味が劣つて居るやうに思はれました。價はどちらも半斤九錢でありますが、「フランスパン」の方は形がズットと大きく、同じ半斤でありながら、前には一食に「パン」ばかりの時は主人一人であらかた半斤を喰べてしまつたのに、「フランスパン」の方は主人と私と二人で、他に何も喰べない時に、半斤が丁度一食になります。味がよい上に費用は却つて少なくなつたやうなわけであります。此の「パン」は二日や三日位置いても味が變る事もなく如何にも純良な食物であると云ふやうな氣持ちを食事の度毎におこさせます。私共は大變に喜んで使つて居ります。私共が使ひ始めてから大分知り合ひの方々から、賴まれて紹介をしてあげました、どなたも大變よろこんでおいでになります。

私はまだ一人で居た時分にも米の價がズン／＼上がつて行くのを惱ましい事に思つて居りましたが、この頃では直接自分たちだけの問題としては米の價がさ程苦にならないやうになりました。米の價が高ければそれにつれて外の物も高くなり、自然その影響を私共も受けますし、それに米の高い爲に苦勞をする人々が澤山ある事を思へば、苦にしないでは居られませんけれ共、高い米その物を自分たちが直接使つて居ないだけでも心持ちが餘程樂々致します。

結婚の始め頃には私共二人の外に、母や甥や姪等が居りましたので、その人々の爲には毎日一二度は米を使ひましたので、炊事の手數はなか／＼大變でしたが、その内私共二人だけになつてからは、まつたく米を使ひませんので炊事がウソのやうに、らく

になりました。毎日何かしら調理をいたしますけれ共、米を使つた時にくらべると以前の事が夢のやうな氣持さへいたします。

「バタ」は大島「バタ」やその他二三種使つて見ましたが、「ゴールドチャーン」と云ふ濠洲の「バタ」が私共には一番結構に思はれますので、今ではそればかりを使つて居ります。何んとも云へない風味があつて一度それを使つてからは外の「バタ」は氣ぬけがしたやうで、使ふつもりになれない程であります。然しそれは私共の好みによるのかも知れません。

朝は「パン」と「バタ」との外に、味噌汁を「スープ」の代りにいたゞきます。御飯の副食物として使ふときのものよりは、ズット薄めて拵へ、「パン」のすんだあとで、「スープ」皿へ盛つて「スープ」のやうにしていたゞきます。主人は東北の生れで、子供の時分から土地のならはしで、味噌汁に親しんで居つたそうで、今もそれを好んで居るので御座います。これは「パン」の後にもまことに結構で御座います。私は南國の生れで、土地のならはしにより、味噌汁と云ふやうなものはつまらないものと思つて居りましたが、それは調理の工合がちがふ爲であつた事をこちらへ參つてからさとりました。今では主人と同じやうに味噌汁が好きになつて居ります。味噌汁には味噌が第一の原料でありますが、私共では知り合の店に賴んで、福島縣喜多方の品を取つて居ります。まことに味のよい味噌であつて、しかも價は東京の品よりも却つて安い位であります。東京の味噌のやうに僅か數日の內に拵へて賣り出されるものとはちがひ、少なくも一年位はねせて居いて賣り出すものでありますから質が大變違ひます。夏の最中にも惡くなるやうな心配はなく、安心して使はれます。東京のよりはズット鹽がからいのでズット薄めて使ひます。殊に今では副食物と云ふのではなく、汁は汁だけでいたゞくので御座いますから、御飯と一緒にいたゞいた時分のよりはズット薄めます。これは味噌汁ばかりではなく外の料理も副食物としての場合と

一皿〳〵の獨立した食物としての場合とでは鹽加減を變へなければなりません。味噌汁は滋養分の方から云つても、「スープ」類とくらべておとらないと聞いて居りますが、私共にもそう思はれます。味噌汁の中には大根とか茄子とか「ワカメ」とかを少々入れて煮ます。

食事が終りますと、水を飲みながら、菓子か水菓子かをかならず喰べます。以前は食事が終ると湯を飲むだり茶を飲むだりして居りましたが、今では水ですませますから、簡單でもあり經濟にもなり、その上氣持ちもよろしう御座います。

晝は「パン」と「バタ」との外に何か一皿拵へます。晩にもやはり何か一皿拵へます。晝に野菜を使ひました時は、晩には脂肪分の多い物を使ふと云ふやうな風にして居ります。お料理はたいていはお鹽で味をつけて「ソース」をかけて喰べるやうなものを拵へて居ります。然し醬油を使ふやうなものも時には拵へます。今のところではお料理も簡單なものばかりを稽古しながら拵へて居るやうなわけでありますし、食器の方も同じ大きさの皿をたいていの場合に使ふと云ふやうな風にして居りますので、道具類が至つて少なう御座います。それでどうやらまに合つて行つて居ります。結婚の最初の頃の事を考へると臺所の樣子も、其所の仕事も、あまり簡單で、以前の事が夢のやうな氣がいたします。



○虎列剌豫防告諭

田尻東京市長は虎列剌豫防に關し七月三十日左の告諭を發せり。

過般來支那各地に於て流行せる虎列剌は既に臺灣澎湖島に侵入し十數名の患者を發し又近く上海より大連に入港したる神戶丸船員中にも同病者の發生を見尙上海方面に於ては病況益々猖獗を極むるの狀況にあるを以て交通上關係多き本市の如きは何時其侵入を被らむも計り難く此時に當り市民は本病豫防に關し最善の注意を拂

ふこと目下の急務なりと信ず而して本病感染の機會は主として飲食物の媒介に據るを以て專ら左記事項に留意し自制して不測の慘害を未然に防禦する樣特に注意を加へられたし

一、虎列剌病は肉眼にて見る能はざる微細なる虎列剌菌より發生し劇しく吐瀉するを主徵候とするも往々吐瀉の少なきもの又は輕き下痢のみにて經過するものあり槪して傳染の劇しき疾病なるが故に嚴重豫防に留意せられたき事

二、虎列剌病の傳染は患者の吐瀉物中にある虎列剌菌を蠅の媒介に依り又は汚染物を處置したる手に附着したる病菌が飲食物に混入し或は吐瀉物を河海に投棄したる爲魚介類に依つて媒介さるゝ等種々の徑路に依り體内に入り發病するに至る仍て此際特に飲食物に注意せらるゝ事

三、飲料水は水道ならば安全なるも井戸水は一旦煮沸したる後使用せらるゝ事

四、魚介類は素より蔬菜等の食物は生のまゝにて食するを避くる樣注意せらるゝ事

五、食物を調理する時は手指食器等を淸潔にし又食事の場合は必ず手指を洗ふ樣に注意せらるゝ事

六、蠅は本菌の媒介を爲す事多し故に之を驅除するに努め食品は蠅除の工夫をせらるゝ事

七、從來の實例に依れば刺身冷し豆腐冷し素麵饂飩等の過食氷水の過飮等に依り發病したる者少なからざるを以て是等は特に注意せらるゝ事

八、嘔吐、下痢を起したる際は速に醫師の診斷を受けらるゝ事

九、「チブス」赤痢の豫防法に付曩に小學校に配付したる印刷物を此際一讀せられ本病豫防の注意に供せらるゝ事

○鐵道院の虎列剌豫防施設

同院總裁官房保健課にては虎疫豫防施設に關し去る十一日各管理局に對し夫々通牒したるが、更に最近の流行狀態に鑑み二十一日左記の如く通牒し、猶ほ外に「虎列剌豫防心得」十數萬枚を印刷し、遍く院内各職員に配付したりと。

第一、淸潔保持に關する件

一、驛、機關庫、檢車所の內外、列車船舶、官舍、合宿所其の他の淸潔方法に勵行すること

二、旅客公衆の手指の接觸すべき部分は一日數回消毒藥液の擦拭をなすこと

三、驛竝に列車其の他便所の淸潔方法を勵行し、特に便所戸扉の引手把手及び尿尿受器等には一日數回消毒藥液を撒布すること

四、擦拭又は撒布には十六倍「クレゾール」水、三十三倍石炭酸水又は四十倍「フォルマリン」水を使用すること

五、便所には可成「カラン」式手洗器を備置し、然らざる場合は一日數回手洗水を取換ふること

六、厠圊池壺の汚物の汲取を勵行せしめ、且つ時々生石灰末又は石油乳劑を投入すること

第二、旅客、職員其の他の健康狀態に關する件

一、乘降旅客の健康狀態に注意し、疑はしき病者ありたるときは速に驛出張の警察官吏に通知すること

二、列車又は船舶にありては乘客の健康狀態に注意し、疑はしき病者ありたるときは、速に臨檢の警察官吏又は檢疫官吏に通知すること

三、職員、構內及び列車營業人竝に合宿所其の他の賄請負人の健康狀態に注意し、疑はしき病者ありたるときは直に醫師の檢診を受けしめ、特に胃腸病者に對しては速に治療を受けし

むること

四、職員に對し院費を以て豫防注射を施行する必要ありと認むるときは至急其の指揮を仰ぐこと

第三、食物に關する件

一、驛內販賣の飲食物の檢査を勵行すること

二、右飲食物調理場及び列車、「ホテル」に於ける食堂及び厨房の蠅の驅除法を勵行すること

三、飲食物の原料は流行地より購入を避けしむること

四、蠅の驅除は左の方法に依ること

(イ)調理上生じたる原料殘片遺殘物等は速に厨房より遠くること

(ロ)調理場には適宜蠅取器を備置せしむること

(ハ)調理場附近には塵溜又は便所ある場合に汚物處分を勵行し、且つ石油乳劑を撒布せしむること

(ニ)石油乳劑は石油四匁五分(約一勺)、石鹼末四匁五分、水壹升を能く混和して製すること

五、飲料水は水道又は煮沸を供給すること

第四、消毒に關する件

一、消毒行季其の他消毒材料備置の箇所にありては常に其の內容の充實に努むること

二、消毒材料備置の必要を認むる、驛庫區には此際速に之が增備をなすこと

三、直急行及び長距離列車には消毒藥を備置すること

四、消毒藥類の補充の敏活を圖ること

五、消毒班員竝に消藥材料取扱者の訓練をなすこと

○警視廳の看護婦試驗

本年第二回同試驗は來月十七、十九の兩日芝愛宕町警官練習所內に於て施行のことに決し、近々告示せらるべく、受驗出願者は凡て七百六十名なりと。

會報

○新潟支會海水浴場

同支會の海水浴場は年々その設備の改善せらるゝと共に入浴者も漸次增加し來り本年の如きは日々數百名の入浴者を見るの盛況を呈したりと。

○新潟支會入會者

通常會員　平石リヤウ子

○澤田エッ子紹介

○轉居

牛込より牛込區矢來町三、舊殿四十號へ　馬屋原鶴子

麻布區より牛込區大久保余丁町一〇九へ　松平すま子

右同　松平芳子

支那より神戸市山本通四ノ一一五へ　市吉愛子

本鄉區より本鄉區西片町十ろノ十一號へ　藤村貴美子

牛込區より本鄉區西片町十ろノ十九號へ　藤村成子

神田區より小石川區上富坂町七へ　吉井しん子

臺中より臺灣臺北龍口街一ノ九へ　宮本きく子

以上

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　岡田徳子
同　山本多穂子
同　松平芳子
評議員　入澤常子
同　濱田捨子
同　原みつ子
同　西舛子
同　緒方悦子
同　小川孝子
同　片山龜子
同　丹波貞子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部隈子
同　山口貞子
同　古市幸子
同　近藤憲子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　守屋千代子

同　長谷川仲子
同　高木鍒子
同　三浦敎子
同　羽田三緒子
同　服部繁子
同　仁禮壽賀子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　男爵母堂　加藤鈴子
同　吉岡彌生子
同　高橋孝子
同　鶴原誠子
同　中濱芳子
同　子爵母堂　松井正子
同　小松いさ子
同　天野多喜子
同　菊池峯子
同　宮本樂子

大正八年九月十七日印刷
大正八年九月二十日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者　莊司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者　柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所　合資會社　杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地
發行所　私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鈴屋町　裳明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店